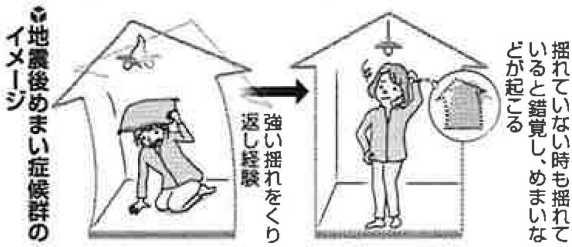


「地震後めまい」患者増

熊本 揺れなくても「感じる」

28日に通算の地震回数が1000回を超えた熊本地震。被災地では、地震が発生していない時も体の揺れやふらつきなどを感じる「地震後めまい症候群」の症状を訴える患者が増えている。強い地震が続いたことに加え、車中泊や避難所生活のストレスが発症の引き金になっている可能性が高い。東日本大震災でも同様の症状が問題になり、専門家は、症状が重い場合は医療機関を受診するように呼び掛けている。

余震、避難ストレス 患者9割女性



熊本県宇城市の松橋耳鼻咽喉科・内科クリニックでは、19日から27日まで、同症候群とみられる症状を訴えて44人が受診した。年齢層は13～89歳と幅広く、うち女性が9割近く(38人)を占める。体の揺れやふらつきを訴える患者が多く、自分や周囲のものが動いたり、回転したりするよう感じる例もあった。44人のうち、20人は車中泊を続けている人で、14人は避難所生活を送っていた。避難生活に強いストレスや不安を感じている人が目立つという。

熊本市東区の熊本赤十字病院でも、25日に同症候群とみられる患者2人が受診した。

地震後のめまい症候群のイメージ

地震後めまい症候群 地震の揺れを何度も経験したことで、体の揺れやふらつきなどを感じる症状。平衡感覚をつかさどる耳の中の三半規管に過度な負荷がかかることや、ストレスや不安感が高まることなどによって、自律神経の失調を招くことなどが原因となる。

地震の爪痕が残る健康商店街でも水道などが復旧し、営業する店舗が徐々に増えている(27日午後、熊本市東区で)＝加藤学撮影



営業再開「被災者の力に」 熊本・健康商店街

19日から営業を再開している和菓子店「NEW若草」の従業員郷陽子さん(64)は、「この店が開いていて良かった」「甘いものは久しぶり」と喜ぶお客さんの声が届く。「いつも通りに店を開くことが、被災者の力になると知った」と語った。

アーケードとスーパー棟が倒壊した熊本市東区の健康商店街では大半が休業に追い込まれたが、18日頃に水道、25日頃にガスが復旧し、全52店舗中28店舗が27日までに営業を再開した。

日本めまい平衡医学会認定した。

東日本大震災の被災者にも、地震後めまい症候群の症状がみられた。盛岡市内で被災した女性も、地震後めまい症候群の症状がみられた。

「東日本」でも「症状数か月」

定めのまい専門会員である松吉秀武・同クリニック院長(49)は、「専門医以外にはあまり知られておらず、報告例は少ないが、避難所にいる潜在患者を含めれば、熊本県内の患者は1000人規模に及ぶのでは」と話している。

「東日本」でも「症状数か月」

被災者の生活環境を早急に整え、ストレスや不安を軽減することが重要だと、報告例は少ないが、避難所「症状がひどい場合、耳鼻咽喉科などの医療機関を受診してほしい」と話している。

もあつた。周囲でも同様の症状を訴える人は多かったという。

震災後、宮城県名取市の避難所で被災者を対象に調査を行った川越耳科学研究所クリニック(埼玉県)の坂田英明院長によると、「ふわふわしている」など、約8割が同様の症状を経験していた。うち、2割3割は症状が数か月続いたという。

坂田院長は、「熊本地震では、余震の回数が多く、さらに春から夏にかけて気圧が不安定な時期でもあり、より症状を感じやすい環境なのではないか」と指摘している。

千葉の女性殺害 近所の男逮捕へ

千葉市稲毛区の契約社員茅野利奈さん(41)が自宅アパートで殺害された事件で、県警が近くに住む男(29)について、強盗殺人などの容疑で逮捕状を取ったことが捜査関係者への取材でわかった。28日午後、逮捕する。

茅野さんは東京都内の勤務先を1日夜に出て、4日夜、遺体で見つかった。男はこの間、茅野さんの部屋に強盗目的で押し入り、刃物で刺殺した疑いが持たれ